

「目の学習」□□先生と○○先生（熊本盲学校）と出会う

□to U

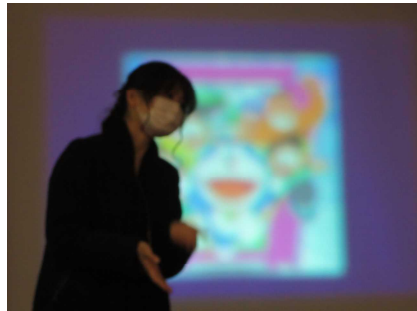
音楽を聴きながら、目をつぶって、みんながそろろうのを待ちました。

□オープニングクイズ 「これは何でしょうか？」

小さくて、ぼやけていて、よくわかりません・・・フレームが大きくなってきたぞ・・・あ、この黒い大きな鼻は・・・色がついたらわかるけど、あ、やっぱり！！色がついて、ピントがぴったり合って・・・アンパンマンです。

第2問の答えはドラえもん、第3問の答えは獣王ジャーでした。

アンパンマンとドラえもんは知っているのですが、小さくてぼやけているときも予想ができましたが、獣王ジャーは森の中かな？と思いました。もともとよく知らないのと、ぼやけていたら全くわかりません。



□「な」かばる △△先生から、今日の学習は「な」んだらう

今からの時間の学習について △△先生からの説明から。

「今日のぼく、なんかいつもと違うでしょ？」 めがねの鼻あてが折れた△△先生。今日はいつもの、キュートなめがねをかけていません。外から見えるちがいです。



でも、外から見えないこともあります。それは、「困っていること」も外からはきづきにくいですね。今日は、目のことから、見えないところのちがいや思っていることなどについて一緒に勉強しましょう。

□ゲストティーチャー紹介

熊本盲学校からおいでいただきました、□□先生と○○先生。朝6時半に車に乗り込んだそうです。

盲学校には、見えづらい子どもやおとな、全く見えないおとなの方が通っています。「目」についてののスペシャルな作戦を考えたりしています。

□な「か」ばる（考える） □□先生から「目のお話」

必要な情報を取り入れている、「目のしくみ」について。まず各部の名前です。くっきり見えるためには、水晶体や硝子体が透明である必要があることがわかりました。

また、仕組みを知らなくても、自動で、ピントを合わせ、電気信号で、視神経→脳へ情報が届いていること、視野や光の調整をするカーテンをうまく調節していることも、わかりました。

□な「か」ばる ○○先生から「いろいろな見え方」のお話

自動で、ピントや、見える範囲や、色や、明るさを調整していることが、当たり前ではないことを教えてくださいました。

○○先生は、常に目が動き、例えば豆電球があったら、それが、ガガガガとゆれているのだそうです。でも、もうなれたそうです。

視野も狭いので、横のものは首を動かして見なくてはいけないので、ものにぶつかったりしたこともあるそうです。

今は一人暮らしで、仕事場（盲学校）までは、歩いて通います。

自転車という方法もありますが、急に飛び出してきたりもあるので、歩いて通っています。

「歩道と車道の間の白い線は、くっきりはっきり見えます。

そんなに困ることはないけど、細かいのを見るのは苦手かな。買い物で小さい字が見えにくいので、コンビニで目に近づけてみていたら、におっているのと勘違いされたり、スーツを買った時のこと。お店ではシンプルな



ネイビーと思って、帰ってよく見たら、チェック模様が入っていたんです。最初に△△先生が言われたように、ぼくがはっきり見えていないことにお店の人は気づいてはいません。

私が心がけていることは、自分で見えるようにしていこう！と。でも、どうしてもわからないときは、先生や店員さん、近くの人に助けてもらうようにしています。

子どものころは、見えにくいと不便なことが多かったので、楽しくない、面倒くさいな～と思っていました。野球なども苦手でした。

でも、できないことはあきらめて、目を使わなくてもできることをたのしみました。かけっこ、マット運動、持久走など。

できること、できる方法を探して。

みんなもそうでしょ？苦手なことがあっても、努力したり。

または切りかえて、新しいことにもいっぱいチャレンジしてください。」

□なか「ば」る 伝え合い 中原アイ（愛EYEトーク）

「見えにくいことがどんなことかが、わかりました。私は、もし、困っている人がいたら、助けたいです。それに、ボランティアとかあっていたら、参加したいと思いました。」

（□□先生）ちょっといいですか！？困っている人が、「見えづらいです。助けてください」と、言いやすいですね。ありがとう。

始まりの△△先生のお話のように、「見えづらい」ことって、周りの人からはわかりにくいですね。

それと、盲導犬をつれていたり、はくじょう（白い杖）を持っている人もいます。

もし、その人が、白杖を肩よりも上にあげていたら、それはSOSのサインです。例えば、「白杖をもったおじちゃん！どうしたんですか？大丈夫ですか？」と、誰に話しかけているのかわかるように、声をかけてください。



この前、出張に行ったら、駅でずっとアナウンスがしていました。「目の見えない方が、ホームで事故にあったのが続いたのです。知っていますか？アナウンスはわかりやすく、みんなにとって親切・安心だと思いました。」

「ぼくも、めがねをかけていますが、〇〇さんと同じで、野球の時、キャッチボールや遠くからボールが飛んできたとき、とても見えにくいです。〇〇さんのお話を聞いて、難しいことなどもあるけど、自分のできること、集中してがんばります。」

「ぼくも、同じです。目がゆれて、バドミントンのシャトルが揺れたり、ボールも見えにくいです。できることから一生懸命したいとおもいます。」

「わたしはふつうに目を使っていたけど、みえることはふつうではないんだなと思いました。困っている人がいたら、助けたいです。」

「ぼくは、目が見えるのが当たり前じゃないことがわかりました。このことを生活に取り入れて行動したいです。」

□なかば「る」（ふりかえる）

目だけのことでなくて、なんでも同じですね。今日の学習が、成長のひとつのきっかけになればいいですね。

□□先生は自分の出会った子どもたちのことを、〇〇先生は、自分が経験してきたことを、それぞれ言葉にして、中原小学校の子どもに投げかけてくれました。子どもたちは、教室に戻り、担任の先生にわからなかったところを教えてもらったり、今まで思っていたことを話したりしました。

